

思い出を胸に新しい保育へ

継立保育所閉所



子どもたちから町長へ鍵の返還



最後の合唱「きみとぼくのラララ」

南部地区の水田や畑に囲まれた自然豊かな栗山町立継立保育所が、平成26年3月をもって閉所となりました。

昭和50年から町立保育所としてスタートし、38年間運営し、子どもたちの笑顔や笑い声に包まれて過ごした38年間でした。

4月1日から民営化となり、「学校法人松田学園 継立まつば保育園」として引き続き運営されます。

● 継立保育所 沿革 ●

- 昭和 29 年 4 月 季節保育園（毎週日曜）発足 入園児 77 名
- 33 年 5 月 週 3 回保育実施
- 39 年 4 月 季節保育から通年保育に変わる
- 42 年 5 月 役場出張所事務所を保育室として使用する
- 43 年 8 月 新園舎完成
- 50 年 6 月 町へ寄付
- 50 年 7 月 園舎改造 福祉会館併合使用
- 50 年 8 月 栗山町立継立保育所として公立運営開始
- 57 年 12 月 現在の継立保育所完成
- 平成 13 年 4 月 かぜのこ児童クラブ開設
- 20 年 4 月 延長保育開始
- 26 年 3 月 閉所式
- 26 年 4 月 継立まつば保育園として生まれ変わる



なつかしい昔のアルバムを見てタイムスリップ



お世話になった皆さんと記念撮影

園歌

小林 純一 作詞
作曲

一、きらきらお日様身にあびて
ぼくも私も手をつなぎ
仲良く皆で遊びます
良い子の継立保育園

二、チンチン小鳥が泣いている
明るい窓で仲々と
元気な良い子に育ちます
楽しい継立保育園



石掛春美所長からお礼の言葉

柏の伝統

永遠なれ

継立中学校閉校



栗山町立継立中学校（木村尚之校長）が平成26年3月をもって閉校となりました。

昨年11月16日には、在校生や、卒業生、歴任教員などの関係者約280人が出席した閉校式が行われました。

同校は、昭和22年に角田村立角田第四中学校として開校し、卒業生は4835人にのびります。

4月からは、栗山中学校と統合し、町内の中学校は1校となります。



3月22日協賛会主催の「惜別の会」歴代校長や教職員に感謝状が贈られました



3月18日PTA主催の「惜別の会」最後の楽しい時間を過ごしました

11月16日除幕された閉校記念碑



11月16日閉校式で校旗が返還されました

校歌

香藤 七郎 作詞
千葉 日出城 作曲

一、丘に樹林の緑濃く
得前遠く雲吐けば
あふれる希望若い胸
吾等は誇る継立中学

二、霜にも強い柏の葉
真理たずねるべんとれば
輝く理想湧く力
吾等は励む継立中学

● 継立中学校 沿革 ●

- 昭和 22 年 角田村立角田第四中学校として開校し、御園小学校に本校を、南学田・日出・円山各小学校に分校を置き授業を開始
- 24 年 町制施行により栗山町立継立中学校となる
- 39 年 校舎改築 1～3 期工事着工
- 43 年 栗山町立円山中学校を統合
- 47 年 体育館落成式挙行政
- 59 年 防音校舎改築改築着工
- 59 年 校舎改築記念式典挙行政
- 平成 元年 グラウンド拡張完成記念式開校 50 周年記念式典・祝賀会挙行政
- 9 年
- 14 年 読書活動実践校として文部科学大臣表彰受賞
- 25 年 コカ・コーラ環境教育賞「活動表彰部門」優秀賞受賞
- 25 年 11月に閉校式・閉校記念碑除幕式挙行政

教育行政執行方針

伝える力

伝えあう力

かかわりあう力



昨年度、本町の小学校1年生の合計は69人で、本年4月1日には、小中学生全体で868人の見込みであります。平成22年度は1000人でしたので急激な減少です。第5次総合計画では、教育行政の使命を「人々が輝くふるさとづくり」とし、「町民だれもが生きがいのある充実した人生を送ることができるよう、学校、家庭、地域などさまざまな場で、生涯にわたって学び活動することが可能な環境をつくり、文化の香り高いまちづくりを進めます」としています。教育委員会は栗山の教育を「栗山町ふるさと教育」と捉え地域の連携・協働の輪を大きくするよう取り組んできました。本年度は、第6次総合計画の教育行政を展望し、さらなる地域の教育機能の向上に努めます。

以下、学校教育、北海道介護福祉学校の教育、社会教育、自然環境教育の4分野に別けて方針を示します。

**ふるさと栗山でしっかり学び
生き生きと活動する子ども**

はじめに、栗つ子が輝く学校教育の主題を「ふるさと栗山でしっかりと学び、生き生きと活動する子ども」とし、人としての土台をつくる学校教育について、主要方針を5つ掲げて推進します。

1 学ぶ意欲の向上と確かな学力の定着

～主要施策4点～
①「基礎・基本の徹底による学力向上」

学校教育の使命は学力の向上です。「読み・書き・計算」など基本的な知識・技能をしっかりと教え、「聞く・話す・考える・調べる」体験的学習を通じてじっくりと学ばせる指導の徹底と「習得・活用・探究」型授業で、子どもたちの学ぶ意欲を高めます。

②「栗つ子の心情に寄り添う個別指導の充実」

標準学力検査などを活用し、一人ひとりの学習状況把握に基づき学力向上を図ります。特別支援教育支援員については、きめ細やかな学習指導を充実させるため継続配置します。栗山版個別の教育支援計画「くりっこファイル」

については、その活用をとおして教員の専門性を高め、一人ひとりの児童生徒への教育支援体制の充実を図ります。

③「小学校英語活動の充実」

平成2年以来、ALT2人を継続配置して、英語のコミュニケーション能力向上や異文化への理解を図り、小学校でもALTとの交流を続けてきました。2人配置の好条件を生かし言語や文化について体験的な理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度の育成のため、小学校での活用を充実させます。

④「ふるさと体験を活用した、元気に学ぼうとする意欲の育成」

里山や夕張川などで体験しながら学ぶ栗つ子は、新しい発見に瞳を輝かせ、五感総動員で意欲的に活動します。

教師が、「栗山を語り、栗山から題材を得た指導をし、栗山で生き生きと体験させる」など広く実践するよう促します。「ふるさと体験教育」で、子どもたちの「伝える力・伝えあう力・かかわりあう力」を高め、ふるさとを大切にす

る人を育てます。

2 生命の尊さの体得と豊かな心の育成

①「道徳の時間を要にした教育活動の総合的な取り組み」

心の教育は、学校教育活動の総合力で行います。道徳の時間の指導を要に、副読本や心のノートを活用など、家庭との協力も図りながら取り組みます。

②「栗つ子の心情に寄り添う『触れ合いを基とする』生徒指導」

生徒指導機能の存分な発揮は、学力向上に直結します。教育相談員と学校との細やかな情報交流による生徒指導支援、子ども・子育て心の相談室、子育て支援関係機関・団体との連携による不登校や虐待問題などへの取り組みを継続します。いじめ問題については、いじめ防止対策推進法



栗山子ども会議で、いじめ問題について討論

かい指導の充実」

中学校が一つになります。学校教育目標を一新し、学校生活での融合を図るため、多くの仲間とかかわり合いながら自らの生き方を考えることができるよう、環境づくりに万全を期します。

5 学校・家庭・地域 総がかりの教育の推進

～主要施策3点～
①「仮称・学校運営協議会の設置」

栗つ子をより良く育むには、学校と家庭と地域とがそれぞれ責任を果たし協力することが大切です。第5次総合計画ではこのことにも力を入れてきました。本年度は、第6次総合計画の教育を見通して「地域総がかりの栗山町教育」準備年度と捉え、「コミュニケーションスクール事業」を活用した協議会の設置を目指し、次の諸課題に取り組む方途を実践的に検証します。

- (1) 家庭や地域の教育機能の向上
- (2) 開かれたふるさと栗山の学校づくり
- (3) いじめ問題に関する各級組織づくりと取り組み
- (4) 学校関係者・外部評価、教



学校図書館のオンライン化は、栗山町ならではの先進的な取り組みのひとつ

を受け、教育委員会や各学校の組織づくりなどの対策を適切に講じるとともに不登校やいじめの防止、あたたかな人間関係づくりに活用するため学校生活アンケート調査を実施します。

③「豊かな感性を育む読書活動」

図書を各学級に巡回させる「ミニくりプロジェクト」、図書館司書を学校に派遣する「学校図書室ステッパアップ事業」、図書館と学校図書室とのオンライン化など、栗山ならではの図書館活動に加え、朝の読書活動、ボランティアによる読み聞かせなどの取り組みで、子どもたちの豊かな感性や創造性を育みます。

④「自然や動植物に触れる機会をとoshたふるさと栗山での豊かな学び」

豊かな自然環境の下、動植物の生命に触れる体験は心の教育には欠かすことができない貴重な教育活動です。ふるさと体験を活用し、栗つ子の豊かな心を育みます。

3 すこやかなからだの育成

～主要施策3点～
①「体力・運動能力テストの活用」

北海道の子どもの体力や運動能力の低下が心配されいま



栗山監督と一緒に食べた学校給食も栗山産の食材が多く使用されている

す。体育の授業の充実と、体力・運動能力調査結果を活用しながら栗山の子どもの体力向上に努めます。

②「栗産・栗消を進める学校給食と食育推進」

ごはんを食べずに登校する子どもがいることを考慮しますと、学校給食を含め子どもの食は重要な問題です。本町の学校給食は、可能な限り地元産物を優先した食材を使用し、関係者の高い評価を得ています。栗山版「食に関する指導の手引」と栗山流「食育10選（実践）」「給食だより」などにより、学校での指導や家庭における食育に関する啓発を継続します。学校給食センターは、新たな建設を期し、具体的取り組みを始めます。

③「歯の健康増進」

小学校のフッ化物洗口を継

い、安全確保に努めます。

また、情報教育の推進、教科指導でのICT活用、校務処理のシステム化を柱とする教育の情報化について、教職員で構成する「仮称・栗山町教育情報化検討委員会」を発足させ、第6次総合計画に向けた具体的なICT機器整備と活用計画について検討協議します。

③「中学校統合に伴うあたた



活発な活動が行われている芸術文化活動

③「生涯学習情報誌の発行」
広報くりやまに併せ「生涯学習情報誌・マナビイ」を発行し、教育委員会の学習情報を提供します。

②「協定大学との連携による学びの充実」
くりやま地域大学を開設し、協定大学との連携による専門的な学習機会を提供し、

町民の学びを充実させます。

①「町民の学び支援」
町民の主體的な学びを支援し、定年退職により第二の人生に差し掛かった世代が地域社会に参画するきっかけとなる学びの提供、各種社会教育団体への支援、「ふるさととは栗山です。」の合言葉にふさわしいふるさとづくりに寄与する事業を推進します。

②「協定大学との連携による学びの充実」

③「生涯学習情報誌の発行」

次に、町民が輝く社会教育の主題を「ともに支え合いふるさと栗山の未来を拓く町民」とし、豊かに学び、その成果を生かすことのできる環境をつくる社会教育について、主要方針を5つ掲げて申し上げます。

ともに支え合いふるさと栗山の未来を拓く町民

育委員会評価などの町議会への報告
(5)土曜日の教育活動の創出と試行
(6)地域ぐるみによる安全の確保
(7)校下地域の教育資源の発掘と学校教育への活用
(8)既存の「地域教育協議会」や「学校評議員」との整合性
②「町民と連携・協働するふるさと体験教育の充実」
例えば、豊かな職業観を育む中学校の地域体験型キャリア教育は、各種企業のご支援の下、14年にわたる実績があります。次世代育成には、地域・家庭・学校・教育委員会の協働が必要ですが、本町にはその基盤があります。関係する皆さんのご理解をいただき、連携・協働の強化に努め、「ふるさとを大切にする人を育てる」ふるさと体験教育を充実させます。
③「基本的生活習慣・判断力の形成」
義務教育の質の高まりが求められる今日、家庭の教育機能の重要性も増す一方です。家庭教育啓発資料「子育て10選（実践）」や子どもたちの規律ある生活リズムを育むための「生活リズムチェック

シート」の活用、家庭教育サポート企業をはじめとする、地域との連携・協働により、基本的生活習慣の形成に関する啓発を継続し、子どものより良い発達の基盤となる家庭教育機能の向上を図ります。

■北海道介護福祉学校の教育
昭和63年の開校以来、27年目を迎える北海道介護福祉学校は、我が国唯一の町立介護福祉士養成校として1977人の優秀な人材を輩出し、介護福祉士養成校として確固たる地位を築いてきました。
超高齢社会の到来により高齢者福祉施設が増し、勤務する介護福祉士の絶対数が不足しています。これまで以上に高い技術を備えた介護福祉士の養成と、絶対数の確保が急務となっています。

しかし、介護福祉士への関心の低さや経済事情などで進学者が減少し、道内養成校全てで定員割れが生じ、本校も定員確保に苦慮しています。このような状況の下、今年度の北海道介護福祉学校教育推進について申し上げます。

学生確保対策
(1)道内唯一の公立養成校という安心感

①道内唯一の公立養成校という安心感

②高校生に本校の「確かな学び」を伝えるため、一日体験入学（年6回開催）に模擬授業を加え、参加者の満足度を向上させつつ継続実施します。加えて、参加者に対する旅費、宿泊費の助成を引き続き実施します。

③近年、卒業生の就職先である社会福祉法人では、不足する介護福祉士確保のため、学生に対する「修学資金制度」の運用がはじまりました。2年間の授業料を社会福祉法人が負担する代わりに、卒業後、当該社会福祉法人に一定期間就職することで返済義務が免除されるという制度です。本校はこの制度を運用し、①経済的な理由により卒業後すぐに就職してしまう高校生

(2)学生を介護福祉士に育て上げる高い教授力と指導力
(3)求人数の多さ、就職率100%25年間維持継続の実績、高い正職員採用率
この強みを前面に押し出し、引き続き、次の4点の学生確保対策に努めます。

①高校生に認知度を高めるため、学校ホームページの充実、進学情報サイトの活用、テレビCMなどの広報活動

を推進します。

②「芸術文化振興と主體的な町民活動への支援」
本町には、美術展や音楽・演劇などの優れた芸術作品に触れる鑑賞事業をはじめ、町民やサークルが積極的に関わってつくりあげる芸術祭・音楽祭などの芸術文化事業が数多くあります。自主的な芸術文化活動などへの支援をするとともに、文化連盟などの関係団体や芸術家と連携し、町民が気軽に芸術文化に親し

③「ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用」
本町には、未来に継承すべき貴重な文化財や史跡があります。地道な活動を続けている文化財保護委員会への支援を通じて、適正な保存・保護に努めます。また、特別展示や広報アノロ、親子餅つきなどのいなどの開拓記念館事業を活用し、郷土の歴史や文化、伝統を学び理解を深めるふるさと学習を充実させます。

④「連携・協働による青少年育成」
青少年育成については、ふるさと体験教育プログラムも活用し、青少年育成会のリーダー研修会、指導者研修会、カルタ大会などの事業を支援します。就学前の幼児と保護者を対象に、ふるさとでの原体験を積み重ねる事業も実施します。

⑤「ふるさと栗山への愛着、豊かな感性、実践力などを育むため、「体験学校・栗山キッズクラブ」を開設し、協定大学や青少年育成会をは

⑥「ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用」

⑦「ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用」

⑧「ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用」

⑨「ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用」

⑩「ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用」

⑪「ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用」

⑫「ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用」

⑬「ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用」

⑭「ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用」

⑮「ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用」

①「連携・協働による青少年育成」
青少年育成については、ふるさと体験教育プログラムも活用し、青少年育成会のリーダー研修会、指導者研修会、カルタ大会などの事業を支援します。就学前の幼児と保護者を対象に、ふるさとでの原体験を積み重ねる事業も実施します。

②「ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用」
本町には、未来に継承すべき貴重な文化財や史跡があります。地道な活動を続けている文化財保護委員会への支援を通じて、適正な保存・保護に努めます。また、特別展示や広報アノロ、親子餅つきなどのいなどの開拓記念館事業を活用し、郷土の歴史や文化、伝統を学び理解を深めるふるさと学習を充実させます。

③「ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用」
本町には、未来に継承すべき貴重な文化財や史跡があります。地道な活動を続けている文化財保護委員会への支援を通じて、適正な保存・保護に努めます。また、特別展示や広報アノロ、親子餅つきなどのいなどの開拓記念館事業を活用し、郷土の歴史や文化、伝統を学び理解を深めるふるさと学習を充実させます。

④「連携・協働による青少年育成」
青少年育成については、ふるさと体験教育プログラムも活用し、青少年育成会のリーダー研修会、指導者研修会、カルタ大会などの事業を支援します。就学前の幼児と保護者を対象に、ふるさとでの原体験を積み重ねる事業も実施します。

⑤「ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用」
本町には、未来に継承すべき貴重な文化財や史跡があります。地道な活動を続けている文化財保護委員会への支援を通じて、適正な保存・保護に努めます。また、特別展示や広報アノロ、親子餅つきなどのいなどの開拓記念館事業を活用し、郷土の歴史や文化、伝統を学び理解を深めるふるさと学習を充実させます。

⑥「ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用」
本町には、未来に継承すべき貴重な文化財や史跡があります。地道な活動を続けている文化財保護委員会への支援を通じて、適正な保存・保護に努めます。また、特別展示や広報アノロ、親子餅つきなどのいなどの開拓記念館事業を活用し、郷土の歴史や文化、伝統を学び理解を深めるふるさと学習を充実させます。

⑦「ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用」
本町には、未来に継承すべき貴重な文化財や史跡があります。地道な活動を続けている文化財保護委員会への支援を通じて、適正な保存・保護に努めます。また、特別展示や広報アノロ、親子餅つきなどのいなどの開拓記念館事業を活用し、郷土の歴史や文化、伝統を学び理解を深めるふるさと学習を充実させます。

⑧「ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用」
本町には、未来に継承すべき貴重な文化財や史跡があります。地道な活動を続けている文化財保護委員会への支援を通じて、適正な保存・保護に努めます。また、特別展示や広報アノロ、親子餅つきなどのいなどの開拓記念館事業を活用し、郷土の歴史や文化、伝統を学び理解を深めるふるさと学習を充実させます。

⑨「ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用」
本町には、未来に継承すべき貴重な文化財や史跡があります。地道な活動を続けている文化財保護委員会への支援を通じて、適正な保存・保護に努めます。また、特別展示や広報アノロ、親子餅つきなどのいなどの開拓記念館事業を活用し、郷土の歴史や文化、伝統を学び理解を深めるふるさと学習を充実させます。

⑩「ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用」
本町には、未来に継承すべき貴重な文化財や史跡があります。地道な活動を続けている文化財保護委員会への支援を通じて、適正な保存・保護に努めます。また、特別展示や広報アノロ、親子餅つきなどのいなどの開拓記念館事業を活用し、郷土の歴史や文化、伝統を学び理解を深めるふるさと学習を充実させます。

⑪「ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用」
本町には、未来に継承すべき貴重な文化財や史跡があります。地道な活動を続けている文化財保護委員会への支援を通じて、適正な保存・保護に努めます。また、特別展示や広報アノロ、親子餅つきなどのいなどの開拓記念館事業を活用し、郷土の歴史や文化、伝統を学び理解を深めるふるさと学習を充実させます。

⑫「ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用」
本町には、未来に継承すべき貴重な文化財や史跡があります。地道な活動を続けている文化財保護委員会への支援を通じて、適正な保存・保護に努めます。また、特別展示や広報アノロ、親子餅つきなどのいなどの開拓記念館事業を活用し、郷土の歴史や文化、伝統を学び理解を深めるふるさと学習を充実させます。

⑬「ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用」
本町には、未来に継承すべき貴重な文化財や史跡があります。地道な活動を続けている文化財保護委員会への支援を通じて、適正な保存・保護に努めます。また、特別展示や広報アノロ、親子餅つきなどのいなどの開拓記念館事業を活用し、郷土の歴史や文化、伝統を学び理解を深めるふるさと学習を充実させます。

⑭「ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用」
本町には、未来に継承すべき貴重な文化財や史跡があります。地道な活動を続けている文化財保護委員会への支援を通じて、適正な保存・保護に努めます。また、特別展示や広報アノロ、親子餅つきなどのいなどの開拓記念館事業を活用し、郷土の歴史や文化、伝統を学び理解を深めるふるさと学習を充実させます。



福祉先進国フィンランドとの交換留学

の維持および正職員採用率の向上に努めます。
(5)地域に開かれた学校づくりを目指し、学校ホームページを活用して学校の教育活動の「見える化」を推進します。
(6)学生の町内各種イベントや施設ボランティア、町内会活動への参加を奨励し、町内での存在感を高めます。
(7)小中高校生の職業選択のきっかけづくりになるよう、「小中高校生の介護体験の受入」「本校専任教員の各学校への派遣」などを通じて介護福祉士の任務を広く紹介し、地域の福祉教育推進に努めます。

①「スポーツ・レクリエーション活動の振興とスポーツ団体等の育成・支援」
本町には、開催が50回を超えるスポーツ大会が複数あります。先輩が築いた基礎を継承し、奮闘している証左です。学校体育施設の有効活用、幼児対象のキッズ運動塾から老若男女対象の全町ソフトボール大会まで、年間を通じた多

②「地域間・国際間交流による青少年の育成」
少年ジェット希望の翼派遣、勤労青年団国内研修、姉妹都市角田市との交歓のつどい、協定大学の学生との体験交流などの地域間・国際交流事業により、たくましい実践力のある視野の広い青少年の育成を図ります。

③「ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用」
本町には、未来に継承すべき貴重な文化財や史跡があります。地道な活動を続けている文化財保護委員会への支援を通じて、適正な保存・保護に努めます。また、特別展示や広報アノロ、親子餅つきなどのいなどの開拓記念館事業を活用し、郷土の歴史や文化、伝統を学び理解を深めるふるさと学習を充実させます。

④「連携・協働による青少年育成」
青少年育成については、ふるさと体験教育プログラムも活用し、青少年育成会のリーダー研修会、指導者研修会、カルタ大会などの事業を支援します。就学前の幼児と保護者を対象に、ふるさとでの原体験を積み重ねる事業も実施します。

⑤「ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用」
本町には、未来に継承すべき貴重な文化財や史跡があります。地道な活動を続けている文化財保護委員会への支援を通じて、適正な保存・保護に努めます。また、特別展示や広報アノロ、親子餅つきなどのいなどの開拓記念館事業を活用し、郷土の歴史や文化、伝統を学び理解を深めるふるさと学習を充実させます。

⑥「ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用」
本町には、未来に継承すべき貴重な文化財や史跡があります。地道な活動を続けている文化財保護委員会への支援を通じて、適正な保存・保護に努めます。また、特別展示や広報アノロ、親子餅つきなどのいなどの開拓記念館事業を活用し、郷土の歴史や文化、伝統を学び理解を深めるふるさと学習を充実させます。

⑦「ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用」
本町には、未来に継承すべき貴重な文化財や史跡があります。地道な活動を続けている文化財保護委員会への支援を通じて、適正な保存・保護に努めます。また、特別展示や広報アノロ、親子餅つきなどのいなどの開拓記念館事業を活用し、郷土の歴史や文化、伝統を学び理解を深めるふるさと学習を充実させます。

⑧「ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用」
本町には、未来に継承すべき貴重な文化財や史跡があります。地道な活動を続けている文化財保護委員会への支援を通じて、適正な保存・保護に努めます。また、特別展示や広報アノロ、親子餅つきなどのいなどの開拓記念館事業を活用し、郷土の歴史や文化、伝統を学び理解を深めるふるさと学習を充実させます。

⑨「ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用」
本町には、未来に継承すべき貴重な文化財や史跡があります。地道な活動を続けている文化財保護委員会への支援を通じて、適正な保存・保護に努めます。また、特別展示や広報アノロ、親子餅つきなどのいなどの開拓記念館事業を活用し、郷土の歴史や文化、伝統を学び理解を深めるふるさと学習を充実させます。

⑩「ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用」
本町には、未来に継承すべき貴重な文化財や史跡があります。地道な活動を続けている文化財保護委員会への支援を通じて、適正な保存・保護に努めます。また、特別展示や広報アノロ、親子餅つきなどのいなどの開拓記念館事業を活用し、郷土の歴史や文化、伝統を学び理解を深めるふるさと学習を充実させます。

⑪「ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用」
本町には、未来に継承すべき貴重な文化財や史跡があります。地道な活動を続けている文化財保護委員会への支援を通じて、適正な保存・保護に努めます。また、特別展示や広報アノロ、親子餅つきなどのいなどの開拓記念館事業を活用し、郷土の歴史や文化、伝統を学び理解を深めるふるさと学習を充実させます。

⑫「ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用」
本町には、未来に継承すべき貴重な文化財や史跡があります。地道な活動を続けている文化財保護委員会への支援を通じて、適正な保存・保護に努めます。また、特別展示や広報アノロ、親子餅つきなどのいなどの開拓記念館事業を活用し、郷土の歴史や文化、伝統を学び理解を深めるふるさと学習を充実させます。

⑬「ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用」
本町には、未来に継承すべき貴重な文化財や史跡があります。地道な活動を続けている文化財保護委員会への支援を通じて、適正な保存・保護に努めます。また、特別展示や広報アノロ、親子餅つきなどのいなどの開拓記念館事業を活用し、郷土の歴史や文化、伝統を学び理解を深めるふるさと学習を充実させます。

⑭「ふるさと栗山の文化財保存・保護とその活用」
本町には、未来に継承すべき貴重な文化財や史跡があります。地道な活動を続けている文化財保護委員会への支援を通じて、適正な保存・保護に努めます。また、特別展示や広報アノロ、親子餅つきなどのいなどの開拓記念館事業を活用し、郷土の歴史や文化、伝統を学び理解を深めるふるさと学習を充実させます。



季節を問わず自然体験プログラムの拠点となる雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス

③ ハサンベツ里山、雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス、夕張川などを拠点とする交流人口の拡大
 〔主要施策4点〕
 ①「町民、学校との連携によるプログラム活用拡大」
 栗山のふるさと体験教育プログラムは、町内外教育関係者に活用されるようになり、ふるさと教育交流会も4回目を迎えます。各小学校の宿泊

②「栗山らしいふるさと教育プログラムの研究と充実」
 学校の教育課程に栗山を題材にした指導を採用しやすくなるため、ふるさと教育プログラムの充実を図り、各教科用ふるさと教育プログラムについても研究を進めます。
 ③「自然環境保全のための中期計画の策定」
 昭和60年にはじまる栗山町の自然環境保全・再生に関する取り組みにより、ハサンベツ里山や夕張川などは、「栗山のふるさと自然体験教育のフィールド」として多くの子どもたちが活用する場となりました。この貴重な教育フィールドを次代に継承するため、中長期的な環境保全・再生に向けた計画づくりに着手します。



スポーツの全国大会で活躍する栗っ子も多い

彩な各種スポーツ行事への支援、スポーツ少年団やスポーツ団体の育成、スポーツ推進委員や指定管理者との協力による町民健康増進機会の提供に努めてまいります。
 ②「体育施設の整備とスポーツ合宿の受け入れ体制づくり」
 本町には優れた体育施設が完備され、充実したスポーツ少年団活動によつて全道・全国大会で活躍する栗っ子が多くなってきました。一方で、施設には経年変化による傷みや機能低下もみられ、改修を要するようになっておりますので、施設・設備の計画的な整備を図ります。
 また、スポーツ合宿団体への支援を継続します。

⑤ 地域総がかりによる教育の充実

〔主要施策2点〕
 ①「地域教育協議会の事業推進」
 ふるさと教育交流会の企画・運営を通じて、学校や家庭・地域との連携・協働の輪を拡げます。広く町民のふるさと学習に資するよう本町独自の小中学校の社会科と理科の副読本を活用します。
 また、教職員対象のふるさと教育に関する教育実践研究会も継続開催し、文部科学省

みんなで支え合いふるさと栗山の原風景を大切に

の「地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業」を利用し、土曜学校の試行を行います。
 ②「幼児教育・家庭教育への支援と啓発」
 家庭教育サポート企業等制度を活用し、地域教育協議会や関係機関・団体との協力・連携の下、幼児教育・家庭教育への啓発を継続します。

① 町民参加による自然環境保全・再生活動への支援

〔主要施策4点〕
 ①「国蝶オオムラサキの育成・保護活動」
 国蝶オオムラサキ生息確認の昭和60年以来、熱意ある町民が豊かな自然環境を守り育てる活動が続けてきました。学校がふるさと教育を教育課程にとり入れ、栗っ子が自然を舞台に嬉々として学ぶことができるのは、長年にわたる町民活動の賜です。国蝶オオムラサキ育成・保護活動への支援を通じて、栗っ子や町民の自然環境保全・再生への意識を高めます。
 ②「里山づくりへの支援」
 「ハサンベツ里山20年計画

研修での活用をはじめ、多様な活用を提案し、交流人口の拡大を図ります。
 ②「施設周辺環境整備や運営への支援」
 ハサンベツ里山センター周辺環境整備や雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウスの運営や周辺施設設備の維持・管理の支援を行い、教育フィールドの整備に努めます。
 ③「コカ・コーラ教育・環境財団との連携」
 第21回目を迎える全国的な環境教育フォーラムをはじめ、公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団が関わる事業は、栗っ子や町民にとって貴重な教育的財産になりました。財団の各種事業と町内関係団体とのよりよい協働を目指します。
 ④「他分野との連携による交流人口の拡大」
 ハサンベツ里山や夕張川などの自然体験フィールドやそれらを活用した質の高い自然環境教育を中心に、農業や観光など他分野との連携により、札幌市などの都市圏を対象とした交流人口の拡大を図ります。

事業による里山づくり」は、全国的には「北海道栗山の里山活動」として知られるようになり、ハサンベツ里山は栗山町ふるさと教育の主要拠点です。今年度は、幼児から高齢者まで、多様な世代が里山づくりへの関心を持つことができるよう、担い手の拡大を目指します。
 ③「北海道いきものの里フォーラムや自然環境団体活動への支援」
 道内3拠点で開催する「ふるさといきものの里フォーラム」など、町民の自主的な環境保全・再生に関わる事業への支援を通じて、町民の自然環境に関する意識と実践力の向上を図ります。

④「自然環境に関する情報発信の充実」

栗山町自然環境ホームページの充実やふるさとカレンダーの作成などにより、栗山の自然環境の情報発信に努めます。

② 栗山町ふるさと体験教育を活かした環境教育の推進

〔主要施策3点〕
 ①「ふるさと体験教育事業の充実」
 平成22年度に制度化したふ

結びに、教育委員5人の決意の一端を申し述べます。
 近年の教育行政執行方針で繰り返しましたとおり、本町には、町民努力の積み上げによる外に誇り得る「連携・協働のふるさと栗山力」があります。

第5次総合計画で、教育委員会はこの町民力に教訓を得て「ふるさと教育」を謳い、連携・協働による栗山町の教育づくりに努めてきました。本教育行政執行方針で、これまではじめて「自然環境教育」を独立させたのは、昭和60年来の「連携・協働による町民活動の教訓」が、引き続き第6次総合計画の教育行政の柱になるものと考えてのことです。

ありますし、第6次総合計画の教育行政は「地域総ぐるみ・総がかりによる教育」へと進むべきものと思慮しているところです。
 教育委員会は、平成19年度から「行動する教育委員会」を目指し、よりよい教育環境づくりに努めてきました。学校・家庭・地域の協働による教育を推進した



栗山ではさまざまな自然体験が可能

るさと自然体験教育事業は、現在では、栗山の歴史や文化や産業も学ぶことができる「ふるさと体験教育事業」へと発展し、ハサンベツ地区・ファアブルの森・夕張川などの身近な自然環境を活用した「栗山ならではの五感総動員原体験教育」として定着しました。
 子どもたちが、豊かな自然環境の下で学び、ふるさとに愛着や誇りを持ち心豊かにたくましく成長することを願い、この4年間積み上げたふるさと体験教育事業の質を高め、自然環境教育を含めたふるさと教育の充実を図ります。
 また、就学前の幼児対象のふるさと体験教育を充実させ、幼児期の家庭教育との連携を図ります。

いとの願いから教育委員と社会教育委員で組織する地域教育協議会主催の「栗山町ふるさと教育交流会」が町民各位からの良い評価を得て4回目を迎えますが、これも一つの成果です。
 本年度も、栗山町教育の質の向上を目指し、連携・協働・地域総ぐるみの教育推進の要となるよう、「行動する教育委員会」の初年に立ち、ふるさと栗山の教育行政推進に努めます。

□教育行政執行方針で「自然環境教育」を初めて独立！
 □行動する教育委員会の初年に立ち、ふるさと栗山の教育行政推進に努めます！

